ふるさかはるか

Haruka Furusaka Solo Exhibition

積層の器　ことづての声

A Vessel in Layers − The Voice of Lore

2022年11月26日［土］〜12月18日［日］　13時から19時まで

＊12月10日［土］は13時から18時30分まで

水・木休廊 ／ 入場無料

助成：公益財団法人小笠原敏晶記念財団　　協力：有限会社修美社

【ギャラリートーク】

11月27日［日］ 14時〜　参加無料・予約不要

本展覧会や作品などについて、作家によるギャラリーツアーです。

【公開制作】

12月4日［日］・18日［日］ 13時〜16時

2023年に出版を予定している「本」づくりに向けた実験作業の一環として、
藍と漆を使った木版刷りの試作の様子をご覧いただけます。
※会場で漆を使用する可能性があるため、漆かぶれに敏感な方はご考慮ください。

【アーティストトーク】

12月10日［土］ 19時〜20時　入場料1000円　定員20名（予約優先）

津軽・南部地方での取材の様子をスライドを交えながらお話しします。
※予約・詳細はギャラリー・パルクWebサイト（www.galleryparc.com）にて

ギャラリー・パルク

602-8242 京都府京都市上京区皀莢町287
堀川新文化ビルヂング 2階
075-334-5085
info@galleryparc.com | www.galleryparc.com

［アクセス］

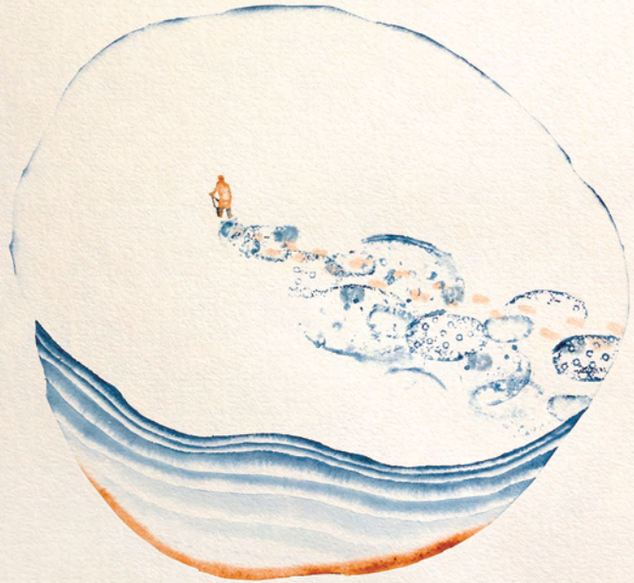
- 地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分
- 地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分
- 京都市バス9番・50番（JR京都駅から約22分）・12番系統（阪急烏丸駅から約15分）・67番系統（阪急大宮駅から約12分）「堀川中立売（◎）」バス停下車徒歩1分
- 駐輪場・駐車場 有　※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

A Vessel in Layers − The Voice of Lore

ふるさかはるか（木版画家）

土と藍から自作した絵具と、版木の持つ自然な色・形に着目した木版画を作る。ノルウェーなど北国での滞在制作・発表のかたわら各地の山の手仕事を訪ね、近年では自然と共に生きる人びとの言葉や手仕事をテーマにした作品に取り組んでいる。展覧会『トナカイ山のドゥオッジ』では、北欧の先住民族サーミの人びとを取材した木版画シリーズを発表。2017年国際芸術センター青森での展覧会『土のことづて』を機に青森での取材を重ねてきた。2010年「木版画アトリエ空中山荘」を立ち上げ、美術館等でのワークショップを通して手仕事と絵画の要素をあわせ持つ木版画の魅力を伝える取り組みも行っている。

harukafurusaka.net | kucyusansou.com



5年間、津軽地方で山の人びととその手仕事を取材し、
彼らの何気ない言葉を題材にしてきた。

マタギの言葉からソマ（木こり）が吹いた漆塗りの笛と出会い、
その音色に山の暮らしの全てが表れている気がした。
自ら掻いた漆の木の命をその笛に託し、ソマは山と呼応したのだろう。

今も漆の樹液を掻く人（漆掻き）の言葉を求めて南部地方へと足を伸ばした。
人が山や木から受け取るサイン、かつて誰かが口にしたことづてを、
彼らの言葉からすくい上げる。

そしてそれらの言葉とともに、
私も自然の色・形と呼応するように藍と土と木を使って絵を描く。
人や自然と呼応すること、作ることに終わりはない。

今、その取材と作品をまとめた本を制作している。
その途上にある作品と作品未満の素材を並べ、取材した人びとと、
制作に関わる私たちそれぞれの手仕事の手ぶりを、ここでつなぎ合わせてみたい。

ふるさかはるか

私が取材した人びと

山中泰彦さん（マタギ・木地師）
鈴木健司さん（漆掻き・塗師）
中畑文利さん（鍛冶屋）

私を取材した人

登久希子さん（人類学研究者）

言葉を読む人

丹治史彦さん（編集者）